1. 環境 Biosphere

北海道の限りある資源を次世代へとつなぐ

ふるさと北海道の資源を
未来へ引き渡していくために、
さまざまな取り組みを行っています。

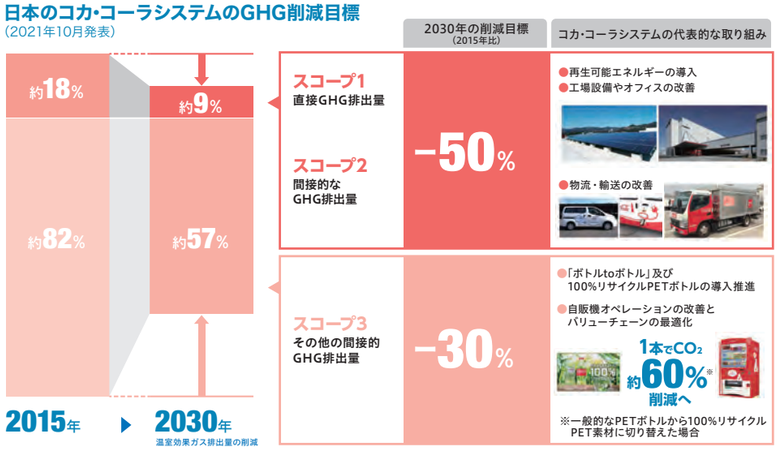
★：第14期中期経営計画の重点項目

温室効果ガス（GHG）削減のために

日本のコカ･コーラシステムのGHG削減目標

日本のコカ･コーラシステムは、日本国内のバリューチェーン全体における温室効果ガス（GHG）を2030年までにスコープ1と2（工場やオフィス、エネルギーに起因する排出量）では50%、スコープ3（原料の加工、自動販売機などの排出量）においては30%（いずれも2015年比）削減する目標を策定しました。

日本のコカ･コーラシステムのGHG削減目標
（2021年10月発表）



当社の取り組み事例

取り組み事例 「ZEB Ready」認証を取得

2022年4月に竣工したグループ会社幸楽輸送(株)の本社において、ZEB Ready認証を取得しました。これは標準的な建物の基準と比べて年間の一次エネルギー（化石燃料など）使用量を50%以上削減できる機能を備えた建物への認証です。

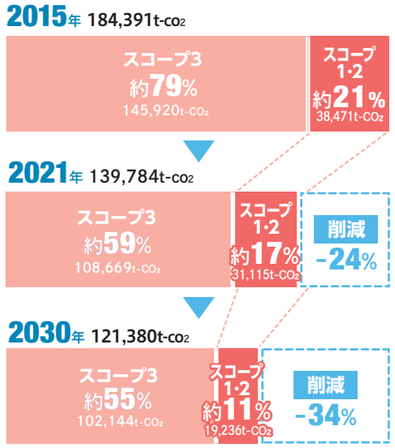
取り組み事例 「省エネ」と「創エネ」

当社の札幌東事業所（2017年竣工）は、LED照明や自然光設備の導入により照明電力の削減に取り組んでいます。また所内で太陽光や風力による発電も行い、GHG排出の削減に努めています。

取り組み事例 省エネ自動販売機

「ピークシフト自販機」は、冷却のための電力を日中に使用しない、超省エネ型自動販売機です。冷却の電力使用を比較的電力に余裕がある夜にシフトしています。夜間に冷却し、日中は冷却を停止したままで最長16時間冷たい製品を販売でき、日中の消費電力を最大約95%削減できます。

北海道コカ･コーラグループのスコープ別GHG排出量実績と削減目標



容器の2030年ビジョン

2021年度の日本国内のPETボトルリサイクル率は86%※となっており、世界最高水準を維持しています。日本のコカ･コーラシステムでは、グローバルビジョン「廃棄物ゼロ社会（World Without Waste）」に基づき、2018年1月に「容器の2030年ビジョン」を設定しました。容器軽量化や、容器の回収・リサイクルへの取り組みなどを通じて得た知見に基づいて、「2030年までに世界で販売する製品の販売量に相当する缶・PET容器をすべて回収・リサイクルする」ことを目指します。

※PETボトルリサイクル推進協議会発表。

World Without Waste3本の柱

❶ 設計 Design

容器の原料や形状を
よりサスティナブルに

- ボトルtoボトル※
- ラベルレス
- 容器の軽量化

※「ボトル to ボトル」とは PET ボトルを回収し、PET ボトルとして再生すること。

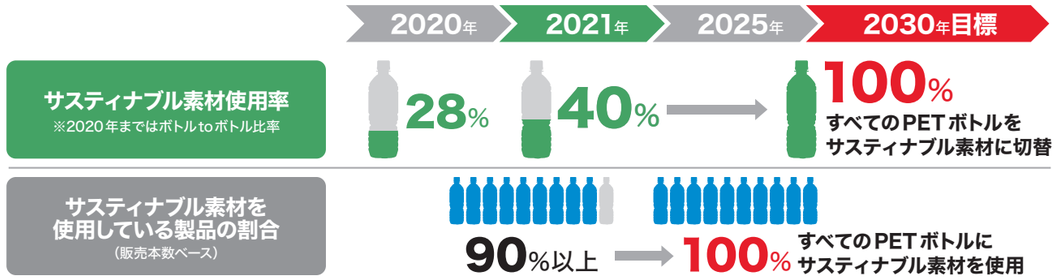
❷ 回収 Collect

販売した自社製品と
同等量の容器を回収&リサイクル

❸ パートナー Partner

政府、自治体、飲料業界、地域社会との
協働を通じ、より着実な容器回収・
リサイクルスキームの構築と維持

日本のコカ･コーラシステム「容器の2030年ビジョン」



※サスティナブル素材＝ボトルtoボトルによるリサイクルPET素材と、植物由来PET素材の合計

旗艦製品が100%リサイクルPETボトルに

2021年5月より、「い･ろ･は･す天然水」や「コカ･コーラ」などの旗艦製品を、100%リサイクルPETボトルに切り替えました。2022年2月時点で、国内で販売している90%以上のPETボトル製品にサスティナブル素材が使われています。

WWFジャパン「プラスチック・サーキュラー・チャレンジ2025」に参画

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン（WWFジャパン）の「サーキュラー・エコノミーの原則」に賛同して、「プラスチック･サーキュラー･チャレンジ2025」に署名しました。2025年までに、国内販売のすべての容器をリサイクル可能な素材に切り替えるとともに、全てのPETボトル製品にサスティナブル素材を使用することを目指します。

ラベルレスを強化、容器軽量化の推進

容器からラベルをなくしてプラスチック使用量を減らし、同時にラベルをはがす手間をなくすことで分別を簡易化した製品が、ラベルレス製品です。2022年2月現在、同製品は8ブランド18製品に拡大しています。また1980年代より取り組んできた容器軽量化による省資源も進み、1本当たりのPET樹脂使用量は、2004年比で約30%削減されました（2021年時点）。